

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成31年1月31日(2019.1.31)

【公表番号】特表2017-504776(P2017-504776A)

【公表日】平成29年2月9日(2017.2.9)

【年通号数】公開・登録公報2017-006

【出願番号】特願2016-536592(P2016-536592)

【国際特許分類】

F 2 3 D 14/22 (2006.01)

【 F I 】

F 2 3 D 14/22 D

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年12月11日(2018.12.11)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 0 6 】

本燃焼装置のいくつかの態様は、中心部材（縦軸を有し、少なくとも一部分が実質的に円柱形であるボディ；およびボディと一体である、少なくとも一部分が実質的に半球形であるチップを含む）と；第一の外側部材（ボディ；ボディと一体であるチップ；および中心部材の縦軸と同心的である内腔を含む第一の外側部材であって、第一の外側部材と中心部材との間に第一の流路が画定されるように配置されている）と；第二の外側部材（ボディ；ボディと一体であるチップ；および中心部材の縦軸と同心的である内腔を含む第二の外側部材であって、第二の外側部材と第一の外側部材との間に第二の流路が画定されるように配置されている）とを含み；本装置は、流体が第一の流路の中を通過して移動して第一の外側部材のチップから出ることを可能にし；かつ、流体が第二の流路の中を通過して移動して第二の外側部材のチップから出ることを可能にするように構成されている。いくつかの態様において、第一の外側部材のチップの少なくとも一部分および第二の外側部材のチップの少なくとも一部分はそれぞれ中心部材のチップに向かって延びる。いくつかの態様において、中心部材は長さ250～320ミリメートルである。いくつかの態様において、中心部材は長さ285ミリメートルである。いくつかの態様において、中心部材は25～75ミリメートルの直径を含む。いくつかの態様において、中心部材は50ミリメートルの直径を含む。いくつかの態様において、第一の外側部材は長さ230～300ミリメートルである。いくつかの態様において、第一の外側部材は長さ265ミリメートルである。いくつかの態様において、第一の外側部材の内腔は20～80ミリメートルの直径を含む。いくつかの態様において、第一の外側部材の内腔は56ミリメートルの直径を含む。いくつかの態様において、第一の外側部材は70～120ミリメートルの直径を含む。いくつかの態様において、第一の外側部材は96ミリメートルの直径を含む。いくつかの態様において、第二の外側部材は長さ190～260ミリメートルである。いくつかの態様において、第二の外側部材は長さ228ミリメートルである。いくつかの態様において、第二の外側部材の内腔は70～140ミリメートルの直径を含む。いくつかの態様において、第二の外側部材の内腔は106ミリメートルの直径を含む。いくつかの態様において、第二の外側部材は110～160ミリメートルの直径を含む。いくつかの態様において、第二の外側部材は131.5ミリメートルの直径を含む。いくつかの態様において、第一の流路の少なくとも一部分は3ミリメートルの幅を含む。いくつかの態様において、第二の流路の少なくとも一部分は5ミリメートルの幅を含む。いくつかの態様において、第一の流路および第二の流路の少なくとも一部分の幅が変化する

ことができるように中心部材は第一の外側部材および第二の外側部材に対して調節可能である。いくつかの態様において、第一の流路の少なくとも一部分の幅が変化することができるように第一の外側部材は中心部材に対して調節可能である。いくつかの態様において、第二の流路の少なくとも一部分の幅が変化することができるように第二の外側部材は中心部材に対して調節可能である。いくつかの態様において、装置はさらに、第一の流路と流体連通した四つの入口であって、これらを通して流体が第一の流路に入ることができる、四つの入口；および第二の流路と流体連通した四つの入口であって、これらを通して流体が第二の流路に入ることができる、四つの入口を含む。いくつかの態様において、中心部材のチップは第一端および第二端を有し、チップの第二端は実質的に凹状である。いくつかの態様において、装置はさらに、第一の流路の中を移動する流体が攪乱されるような、中心部材に結合され、少なくとも部分的に第一の流路の中に広がる渦流式導流板を含む。いくつかの態様において、装置はさらに、第一の流路および第二の流路の中を移動する流体が攪乱されるような、中心部材に結合され、少なくとも部分的に第二の流路の中に広がる渦流式導流板を含む。いくつかの態様において、装置はさらに、中心部材に結合された渦流式導流板を含み、中心部材が、中心部材の縦軸と同心的であり、かつ中心部材のボディおよびチップの中を移動する流体は攪乱される。いくつかの態様において、第一の外側部材は、流体を第一の流路に対して実質的に垂直に第一の流路に導入することができるように構成されている。いくつかの態様において、第二の外側部材は、流体を第二の流路に対して実質的に垂直に第二の流路に導入することができるように構成されている。いくつかの態様において、装置はさらに、中心部材に結合された点火プラグを含む。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0036

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0036】

流体が湾曲面の上（たとえば、湾曲面の二つの側の上、たとえば図7に示すように、円の上）を流れるならば、コアンダ効果を観測することができ、これは、開示される燃焼装置によって促進される。湾曲面上の流体流は低圧領域を発生させ、それが、流体分離の相対的な遅れを生じさせる。流体が湾曲面の終点に接近するとき、流体は静圧を回復し、周囲圧に近づき始める。再循環ゾーンが湾曲面の終端に生じうる。流体が、円のような湾曲面の二つの側の上を流れるならば、湾曲面の各側の流体は再循環ゾーンで混合し（たとえば気流同伴を引き起こし）、再循環ゾーンから下流で混合し続けることができる。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0037

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0037】

図8は燃焼装置10jの一部分の態様を示す。燃焼装置10jは、縦軸を有する中心部材30jを含む。中心部材30jは、ボディ34jおよびボディ34jと一体であるチップ42jを含む。図示する態様において、中心部材30jのチップ42jは実質的に半球形である。チップ42jは、ボディ34jに近い第一端46jと、ボディ34jから遠い第二端50jとを含む。図8に示す態様において、チップ42jの第二端50jは実質的に凹状である。さらに、図示する態様において、燃焼装置10jは第一の外側部材54jを含む。図示する態様において、第一の外側部材54jは、実質的に湾曲しているチップ62jを含む。図示する態様において、第一の外側部材54jはさらに、中心部材30jの縦軸と同心的である内腔66jを含む。内腔66jはチップ62jの中を移動する。さらに、第一の外側部材54jは、第一の外側部材54jと中心部材30jとの間に流路70j（内腔66jの一部分）が画定されるように配置される。装置10jは、流体が流路70jの中

を通過して移動し、第一の外側部材54jのチップ62jから出ることを可能にするように構成されている。燃焼装置10jはさらに、第二の外側部材74jを含む。第二の外側部材74jは、実質的に湾曲しているチップ82jを含む。図8中、第一の外側部材54jのチップ62jおよび第二の外側部材74jのチップ82jは類似の湾曲を含むが；他の態様において、チップ62jとチップ82jとは異なる湾曲を含むことができる。第二の外側部材74jはさらに、中心部材30jの縦軸と同心的である内腔86jを含む。内腔86jはチップ82jの中を通過して延びる。第二の外側部材74jは、第一の外側部材54jと第二の外側部材74jとの間に流路90j（内腔86jの一部）が画定されるように配置される。装置10jは、流体が流路90jの中を通過して移動して、第二の外側部材74jのチップ82jから出ることを可能にするように構成されている。図8に示す態様は、図8の燃焼装置および本開示に記載され、示される他の燃焼装置によって促進されるコアンダ効果の例を示す。チップ42j、チップ62jおよびチップ82jの湾曲面上の流体流は低圧領域を発生させ、それが、流体分離の相対的な遅れを生じさせる。流体が湾曲面の終点に接近するとき、流体は静圧を回復し、周囲圧に近づき始める。図8に示すように、中心部材30jのチップ42jの実質的に凹状の部分の近くに再循環ゾーンが形成する。流体は再循環ゾーンで混合し（たとえば気流同伴を引き起こし）、再循環ゾーンから下流で混合し続けることができる。